

滋賀県大津市に膳所(せせ)という珍しい名称の駅がある。その膳所駅から琵琶湖に向かって450mほどの距離の緩やかな坂道は、膳所駅から大津市唯一の百貨店である「西武大津店」や大型店舗である「Oh!Me大津テラス」に続く商店街で、「ときめき坂」と呼ばれている。ときめき坂は、平成の初期頃には、ファーストフード店やファッション店舗等の若者向けの店舗が建ち並んでいたため、大津の竹下通りと呼ばれていたという話もある商店街で、96(平成8)年の大津パルコ(現在のOh!Me大津テラス)の開店時には若者を中心に県内から広く顧客を集め、活気があった地域である。

数の人気のマンションエリアである。琵琶湖の湖岸の埋立地にマンションが増加してお

～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景 第49回 滋賀県大津市



一般財団法人 日本不動産研究所

の増加エリアとなっている。このように周辺の人口が増加している状況にもかかわらず、20年8月には大津市唯一の百貨店である西武大津店が閉店することが公表された。跡地はマンションを軸として開発が予定されている。大型店撤退の理由としてはい

②ときめき坂を示す大津市の標識 ①大津の竹下通りと呼ばれたときめき坂商店街



商況移ろう「ときめき坂界限」

まちの将来像を住民が共有

ときめき坂の所在する大津市の膳所駅周辺は県内でも有

り、売れ行きも好調で、人口

JR大津駅や大津京駅、石山駅等に商業施設が分散しており、顧客が分散傾向にあること等が挙げられる。

住民主体のまちづくり

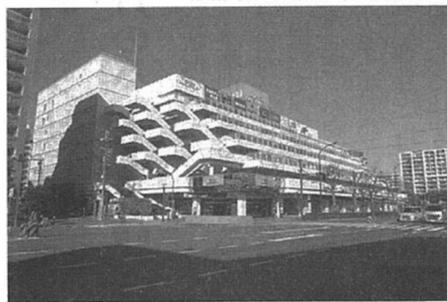
大津パルコと西武百貨店の相次ぐ大型店舗の閉店に伴い、地元ではにぎわいがなくなり、街の魅力が失われるのではないかと強い危機感を持っている。このような状況の中、地元では16(平成28)年頃からまちづくりフォーラム等を開催し、小学生から高齢者までが参加して、多世代で交流を深めたり、地域の良いところを検討

このように大型店の衰退と併せて、客層が若者向けから周辺の居住者を対象とした飲食店や学習塾等の店舗に変化してきており、ときめき坂周辺の店舗も入れ替えが多くなっている。また、大型店でも現在では周辺のマンションの居住者向けのスーパーや家電量販店、ファミリー向けの

このように、若い世代の意見も取り込みながら、まちの将来像を共有し、「住民主体のまちづくり」を実施すること、今後は地域にあったにぎわいと住みやすいまち

大津パルコと西武百貨店の相次ぐ大型店舗の閉店に伴い、地元ではにぎわいがなくなり、街の魅力が失われるのではないかと強い危機感を持っている。このような状況の中、地元では16(平成28)年頃からまちづくりフォーラム等を開催し、小学生から高齢者までが参加して、多世代で交流を深めたり、地域の良いところを検討

このように、若い世代の意見も取り込みながら、まちの将来像を共有し、「住民主体のまちづくり」を実施すること、今後は地域にあったにぎわいと住みやすいまち



④8月末に閉店予定の西武大津店 ⑤「Oh!Me大津テラス」と周辺マンション

このように、若い世代の意見も取り込みながら、まちの将来像を共有し、「住民主体のまちづくり」を実施すること、今後は地域にあったにぎわいと住みやすいまち

このように、若い世代の意見も取り込みながら、まちの将来像を共有し、「住民主体のまちづくり」を実施すること、今後は地域にあったにぎわいと住みやすいまち

このように、若い世代の意見も取り込みながら、まちの将来像を共有し、「住民主体のまちづくり」を実施すること、今後は地域にあったにぎわいと住みやすいまち